

森林自己学習支援事業 人と木をつなぐプロジェクト

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻

目的

福島県産の間伐材等を活かした家具(スツール)や日用品の制作を通して、福島県の森林状況や県産材の利用促進について考え、建築技術者として活躍する将来に活かす。建築端材を用いて環境に配慮したモノづくりを実践し、木の特性や木材加工技術、木材利用の可能性を学び、地域の方々へ木の魅力を伝えることで、人と木をつなぐ活動に繋げることを目的とする。

スツール制作



木工大工職人さんの指導を受けスツール制作に取り組み、木の特性や木材加工技術を学んだ。



木造軸組み模型の制作



木造軸組み模型の制作をとおして、墨付け・刻み等、木材加工の伝統技術や建物の構造、内外装、断熱材等の施工方法について学んだ。

リノベーションについての講義



在来木造軸組み工法の概要や耐震・断熱など設計者に求められる知見の最新トレンドを学び、戸建て住宅性能向上リノベーションの実際について学んだ。

講演会



自然との共生をテーマに、森林を再生する建築や昨今の建築分野における課題解決に向けての取り組みについて、講演会を開催し地域における木材利用の持続可能性について考える。

建築端材を用いたモノづくりの準備



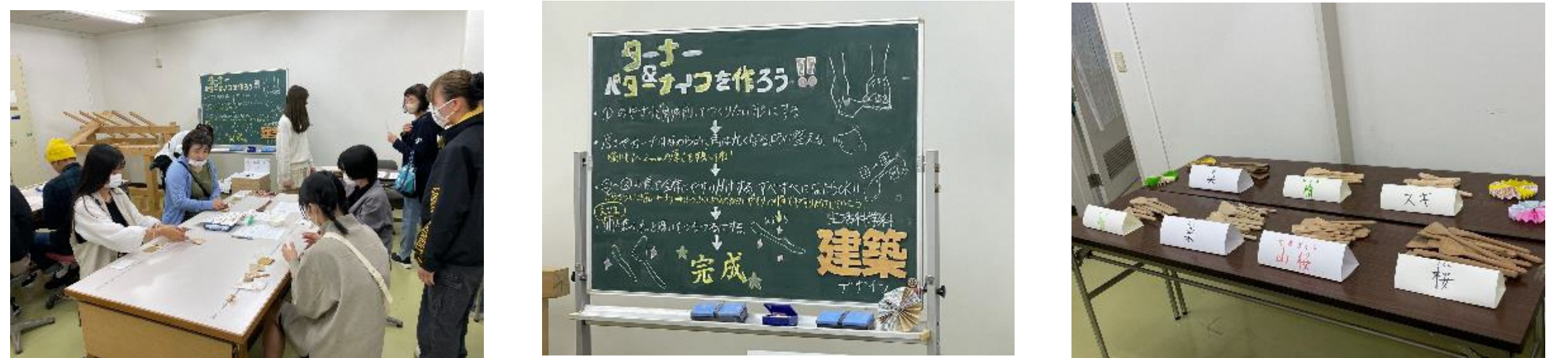
木材加工の工場を見学しながら、ワークショップで使用する材料(建築端材)の選別・調達をした。

ワークショップのための実践講座



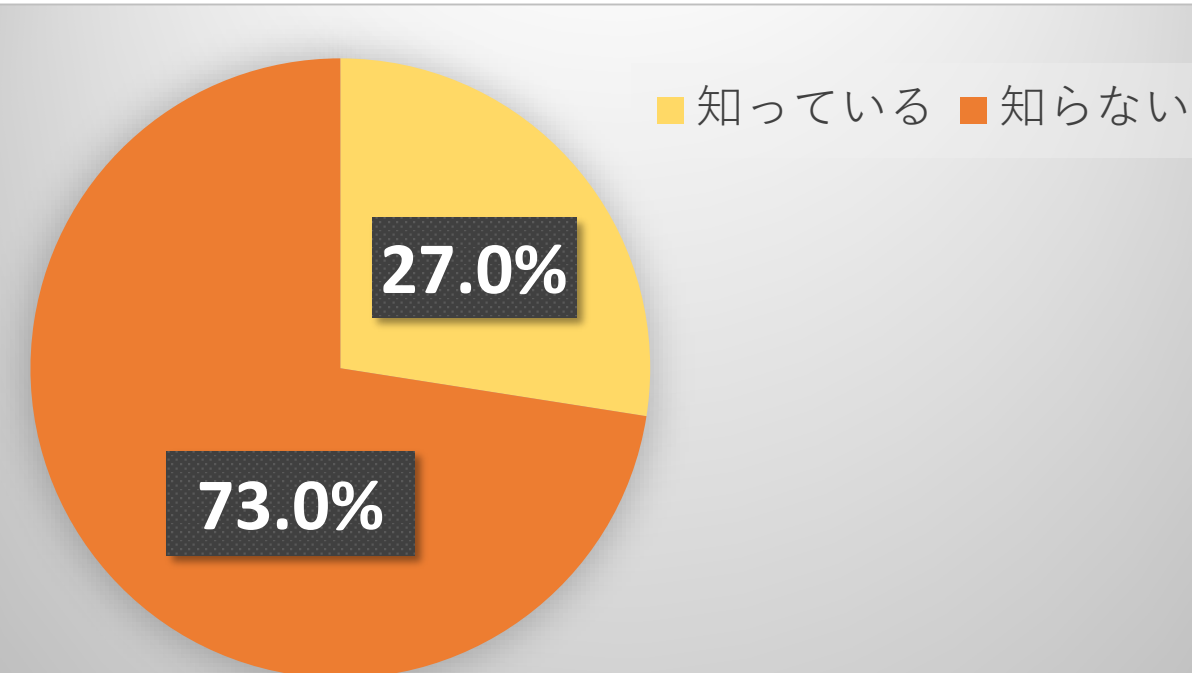
講師を招いて、ワークショップの進め方や制作のポイント等のレクチャーを受け、ターナー・バターナイフの制作方法を学んだ。

木工体験ワークショップ

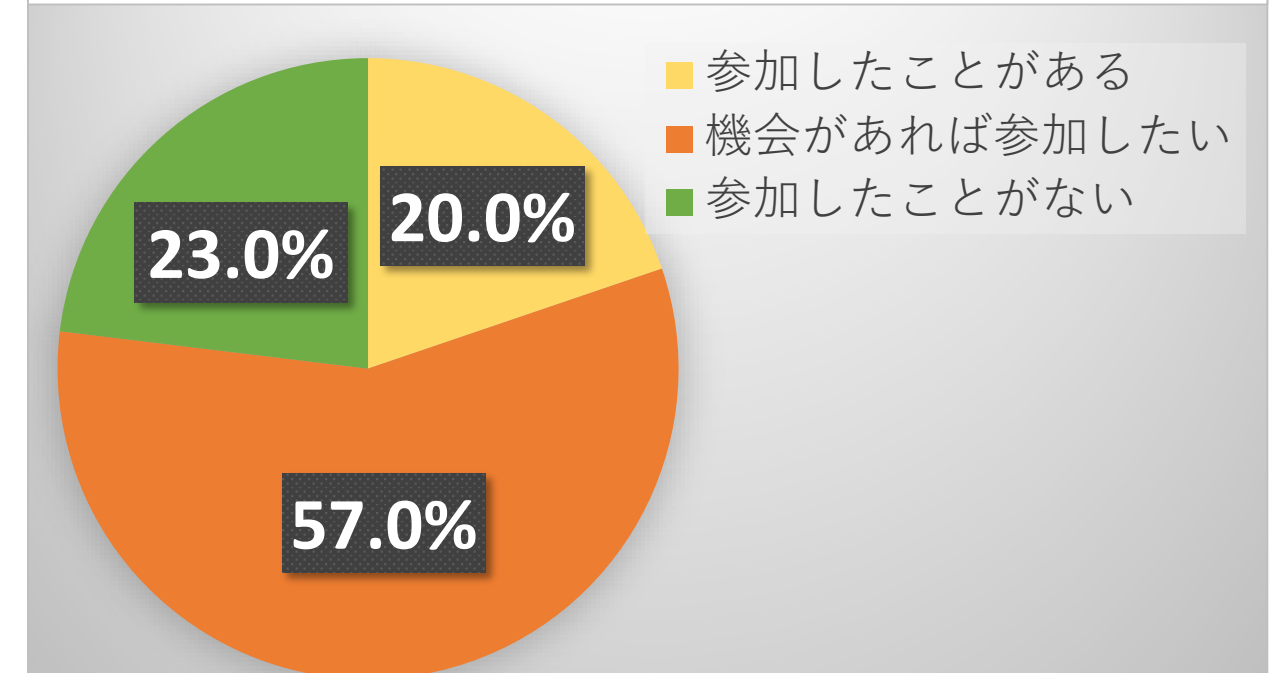


地域の方々を対象に木工体験ワークショップを開催し、ターナー・バターナイフの制作を通して木材加工の楽しさや木の魅力を地域の方々へ伝えた。91人の来場者を対象に「福島県の森林に関する意識」についてアンケート調査を実施した。

福島県全体の面積の約7割が森林であることを知っていますか？



森林づくりのボランティア活動に参加したことがありますか？



今後、あなたが森林・林業行政で力を入れてほしいと思うことは何ですか？(複数回答)

間伐や植林などによる森林の整備	22人
土砂崩れなどの災害を防ぐ施設の整備	46人
原生的な森林や貴重な動植物の保護	24人
木材の安定的な供給や木材利用の推進	17人
遊歩道やキャンプ場の整備など森林とのふれあいの場の提供や観光資源としての活用の推進	44人
森林・林業・木材利用に関する教育の充実	12人
森林を守り育てている農山村住民に対する支援	22人
ボランティア活動の支援など国民が森林づくりに参加しやすい仕組みの充実	17人
野生の鳥獣によって森林が荒らされることへの対策の推進	20人
国有林の適切な管理・経営の推進	16人
海外での植林への支援など森林・林業分野の国際協力	9人

アンケート結果より分かったこと

森林づくりのボランティア活動に興味を持っている人が少なくないことから、地域の人々が気軽に参加できるようなイベントや活動を提案し、環境に配慮したモノづくりや森林を再生する建築など、地域の課題解決につながる活動に繋がってほしい。

活動を通して

福島県産の間伐材等を活かした家具(スツール)や日用品の制作を通して、福島県の森林状況や県産材の利用促進について考える契機となった。また建築を学ぶ学生として、森林を再生する建築や昨今の建築分野における課題解決に向けての取り組みについても学ぶことができた。環境に配慮したモノづくりの実践では、建築端材を活用し地域の方々へ木の魅力やモノづくりの楽しさを伝えることができ、人と木をつなぐ有意義な活動になったと考える。